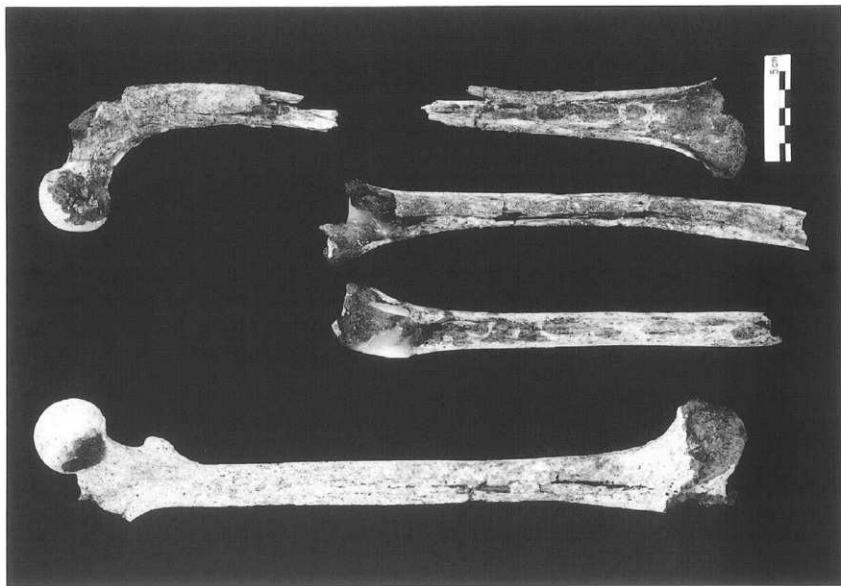
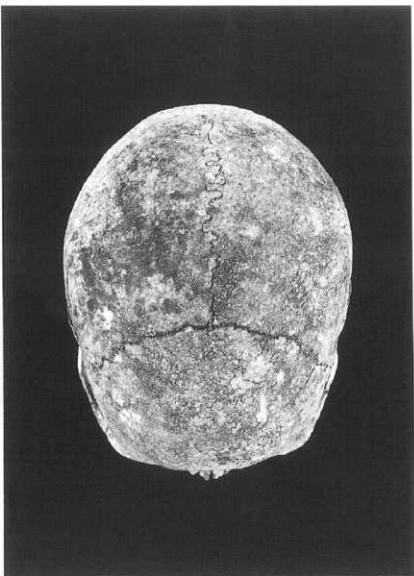


上肢骨 (Bones of the Upper limb)

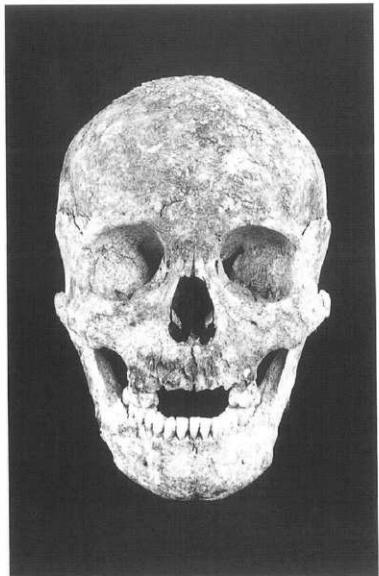
龜池2001-3人骨 (女性・壯年)
(The Chikuike 2001-3, young adult female)



下肢骨 (Bones of the Lower limb)



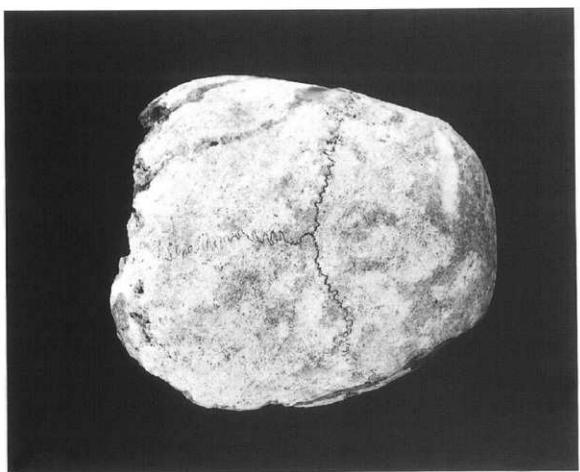
頭蓋上面 (Superior view of the skull)



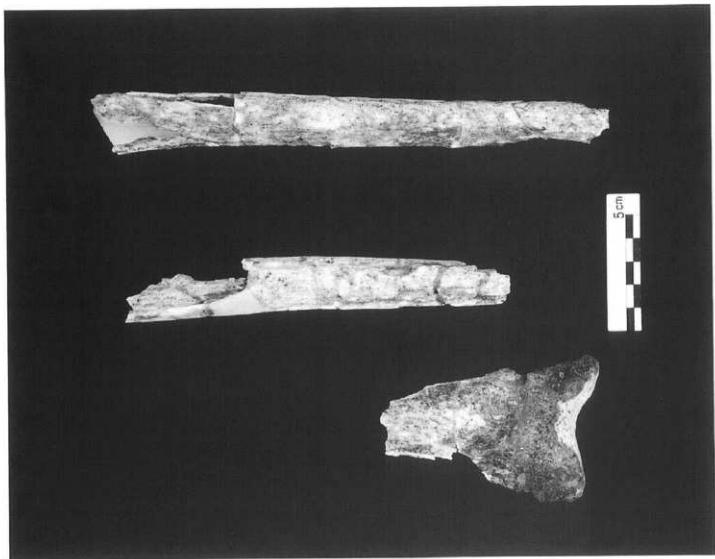
頭蓋正面 (Frontal view of the skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the skull)
柴池2001-3人骨 (女性・壯年)
(The Chikuike 2001-3, young adult female)



頭蓋上面(Superior view of the skull)
渠池2002-03人骨(女性・壯年)
(The Chikuike 2002-03, mature female)



下肢骨(Bones of the lower limb)
渠池2001-6-2人骨(男性)
(The Chikuike 2001-6-2, male)

表1 資料数 (Table 1.Number of materials)

成人			幼小兒	合計
男性	女性	不明		
1	5	2	0	8

表2 出土人骨一覧 (Table 2.List of skeletons)

墓番号・人骨番号	性別	年齢	備考(形式、時代、推定身長値)
2001-2号墓人骨	女性	不明	平入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀
2001-3号墓人骨	女性	壮年	平入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀、147.53cm
2001-5号墓人骨	女性	成年	妻入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀
2001-6号墓1号人骨	女性	不明	妻入り(2体埋葬)、5世紀~6世紀
2001-6号墓2号人骨	男性	不明	
2001-7号墓人骨	不明	不明	平入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀
2002-2号墓人骨	不明	不明	妻入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀
2002-3号墓人骨	女性	熟年	平入り(単体埋葬)、5世紀~6世紀

本人骨群の所属時期は、考古学的所見から、5世紀から6世紀前半の古墳時代と推測されている。

計測方法は、Martin - Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木(1963)と松下ら(1983)の方法で計測した。

なお、年齢区分に関しては表3の基準のとおりである。

表3 年齢区分 (Table 3.Division of age)

年齢区分	年	齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳~5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小兒	6歳~15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯根完成まで)
	成年	16歳~20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳~39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳~59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所 見

2001-2号墓人骨(女性、年齢不明)

I. 出土状況

志和池古墳(円墳・県指定)の周溝内に竪坑が存在し、形式は平入り。出土人骨は1体のみで、仰臥伸展葬。また、右側手首付近からビーズ玉が検出された。人骨の保存状態はかなり悪い。頭蓋はほとんど潰れており、かろうじて下顎骨の一部(下顎体)を取り上げることができた。

II. 人骨の形質

1. 頭蓋

取り上げることができたのは下顎骨の一部のみであった。下顎骨の径は小さく、高径はかなり低い。

下顎骨には歯が定植していた。遊離歯を含めた残存歯を歯式で示した。

8	7	/	5	4	3	2	/	/	/	4	/	6	7	8	
/	7	6	5	4	/	/	1	1	2	/	4	5	6	7	8

(●：傷痕留め ○：歯根固存 ▼：先天的欠損 ■：本歯由 /：不明、番号は歯種)

[1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小白歯、5：第二小白歯、6：第一大臼歯、7：第二人臼歯、8：第三大臼歯]

咬耗度はBrocaの1~2度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

2. 四肢骨

右側上腕骨体の一部が残存していた。径はかなり小さい。左側寛骨の大坐骨切痕部分が残存していた。現場で観察したところ、この角度は大きかった。左右の大脛骨頭と左側骨体を取り上げることができたが、計測はできない。観察によれば径は小さい。左側脛骨の一部を取り上げることができたが、径は小さい。第二類椎(椎軸)の歯突起部分を取り上げることができた。この径も著しく小さい。

3. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度が大きかったことと下顎骨や四肢骨の径が小さいことから、女性と推定した。年齢は不明である。

2001-3号墓人骨(女性・壮年)

I. 出土状況

形式は平入りで、1体の人骨が出土した。仰臥伸展葬。被葬者の左側には1振りの剣が副葬されていた。その他に鉄鎌が副葬してあった。人骨の保存状態は今回出土した人骨のうちではもっとも良好であったが、右側の上肢は溶けて、痕跡しか残っていなかった。

II. 人骨の形質

取り上げが可能だった部分は図2に示した。

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

脳頭蓋は後頭骨の一部を欠損している以外はほぼ完全である。前頭部などは赤色顔料(朱)が付着している。骨壁はもろく、外板は剥落しそうな状態である。外後頭隆起の発達は弱く、乳様突起も大きくない。外耳道は両側とも観察できたが、骨頸は左右とも認められない。縫合は、三主縫合とも内外両板が離開している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が174mm、頭蓋最大幅は136mm、バジオン・ブレグマ高は126mmである。頭蓋長幅示数は78.16、頭蓋長高示数は72.41、頭蓋幅高示数は92.65となり、頭型はmeso-,ortho-,metriokran(中、中、中頭型)に属している。また、頭蓋水平周は501mm、横弧長は303mm、正中矢状弧長は365mmである。

(2) 頬面頭蓋

顎面頭蓋もほぼ完全であるが、表面はかなり脆くなっている。顎面にも赤色顔料(朱)が付着している。眉上弓の隆起は弱く、前頭結節はよく発達している。鼻骨はやや隆起しており、鼻根部は狭い。

顎面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅が131mm、中顎幅は94mm、頭高は115mm、上顎高は(59)mmで、顎示数

は87.79(K)、122.34(V)、上顎示数は(45.04)(K)、(62.77)(V)となり、顔面には高・狭顎傾向が認められるが、低顎である。

眼窩幅は41mm(右)、40mm(左)、眼窩高は33mm(右)、34mm(左)で、眼窓示数は80.49(右)、85.00(左)となり、右側はmesokonch(中眼窓)に、左側はhypskonch(高眼窓)に属している。

鼻幅は22mm、鼻高は47mmで、鼻示数は46.81となり、leptorrhin(狭鼻)に属している。

鼻根部の計測値は、前眼窓間幅が18mm、鼻根横弧長は22mm、鼻根弓曲示数は81.82となり、鼻根部はそれほど扁平ではない。両眼窓幅は94mmで、眼窓間示数は19.15となり、顔の幅に対して、眼窓間幅は狭い。鼻骨最小幅は9mmで、前頭突起水平傾斜角は92度を示し、前頭突起の向きは矢状方向である。鼻根角は140度、鼻根凹凸示数は17.24で、鼻頸角は150度である。

侧面角は、全側面角が(86)度、鼻側面角が88度、歯槽側面角は(79)度で、歯槽性突顎の傾向は認められない。

下顎骨はほぼ完全である。筋突起の発達は良好で、下顎枝や下顎体の高径は高い。また、下顎枝の幅はやや狭く、下顎切痕もやや深い。角前切痕も認められる。

2. 齧

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を儀式で示すと、次のとおりである。

8	7	6	5	4	3	2	①	1	2	3	④	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

(●：齒槽開鎖　○：齒槽開存　▼：先天的欠損　■：本齶出　／：不明、番号は歯種)

(1：中切歯、2：郷切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯)

咬耗度はBrocaの1度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は上下の切歯に咬耗が認められることから、おそらく鉗子状咬合であろう。

3. 四肢骨

(1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、桡骨、尺骨が残存していた。

①鎖骨

両側とも取り上げが可能であった。長さは長く、細い。

②上腕骨

左側の取り上げが可能であったが、骨体の保存状態はあまりよくない。長さはあまり長くはない。三角筋粗面の様態などは不明である。骨体の状態が悪いので、計測はほとんどできないが、最大長が計測できた。最大長は260mm(左)、頭最大矢状径が38mm(左)である。観察したところ、骨体の径は女性としてはやや大きい方であろう。

③桡骨

左側骨体を取り上げることができたが、骨表面が剥落しており、計測できない。骨体の径はかなり小さい。

④尺骨

尺骨も左側のみが取り上げ可能であった。骨間縫はよく発達しているが、骨体の径は小さく、細い。

(2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

①寛骨

左右の腸骨などを取り上げることができた。大坐骨切痕の角度は大きい。耳状面前溝は浅い。

②大腿骨

左右ともよく残っていたが、右側の方が残りは良好である。長さはやや長く、骨体は直線的で彎曲が小さい。また、粗縫の発達は悪くはないが、骨体の幅径の方が矢状径よりも大きく、骨体上部は扁平である。

計測値は、最大長が384(右)、骨体中央周は76mm(右)であるが、長厚示数は算出できない。骨体は頑丈ではない。骨体中央矢状径は22mm(右)、横径は25mm(右)で、骨体中央断面示数は88.00(右)となり、粗縫や骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。また、上骨体断面示数は68.97(右)となり、骨体上部はきわめて扁平である。

③脛骨

両側とも残っていたが、保存状態はよくない。ヒラメ筋線の発達は悪く、骨体もそれほど太くない。骨体の断面形は右側はヘリチカのIV型を呈しているが、左側は不明である。

計測値は、中央最大径が26mm(右)、中央横径は19mm(右)で、中央断面示数は73.08(右)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周は71mm(右)で、骨体は細い。

④腓骨

左側骨体が残っていたが、変形が著しく、様態は不明である。

4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearsonおよび藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ147.53cm(Pearson、右)、147.06cm(藤井、右)となり、低身長であるが、地下式横穴墓出土の古墳人としてはやや高身長である。

5. 性別・年齢

性別は、肩上弓の隆起が弱く、前頭結節も発達しており、大坐骨切痕の角度が大きいことから、女性と推定した。年齢は三主縫合の内外両板とも開離していることから、壮年と思われる。

2001-5号墓人骨(女性、成年)

I. 出土状況

形式は妻入りで、単体埋葬である。仰臥伸展葬。ほぼ全身の骨を確認することができたが、保存状態は悪く、取り上げることは困難であった。被葬者の左側には刀子が副葬されていた。

II. 人骨の形質

取り上げができたのは、右側頭骨、下顎骨、鎖骨、上腕骨、大腿骨、寛骨のそれぞれ一部のみであった。

1. 頭蓋

頭蓋は潰れていた。右側外耳道が観察できだが、外耳道の口径は小さく、骨壘は存在しない。下顎骨は下顎中央部が残っていたが、径は著しく小さい。

下顎骨には歯が釘植していた。遊離歯と歯槽の状態は次のとおりである。

/	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	/
/	7	6	5	4	/	2	/		/	/	3	4	5	6	7	/

(●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ▼：先天的欠損 ■：未萌出 ／：不明、番号は歯種)
〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第1小白歯、5：第2小白歯、6：第1大臼歯、7：第2大臼歯、8：第3大臼歯〕

咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

2. 四肢骨

左側鎖骨の一部を取り上げることができたが、径は著しく小さい。

上腕骨は左右の骨体が残っていた。計測はできないが、径は小さく、骨体は扁平である。寛骨は、左側寛骨臼の一部が残っていた。大腿骨は左鎖骨骨体が残っていたが、緻密質表面が剥落しており、計測はできない。観察したところ、径はかなり小さいが、骨体両側面は後方へ発達しており、粗線の発達も良好なものだったようである。

3. 性別・年齢

性別は、下顎骨や四肢骨の径が著しく小さいことから、女性と推定した。年齢は、現場で歯の萌出状況が観察できたが、歯の萌出状況から17歳から19歳ころの成年と思われる。

2001-6号墓

妻入り、2体の人骨が埋葬されていた。奥壁に向かって右側を1号人骨、左側を2号人骨とした。1号人骨の右側には1振りの鉄剣が副葬されていた。2号人骨の足に鉄鎌が副葬されていた。残存していたのは2体とも頭蓋と下肢骨のみである。

2001-6号墓1号人骨(女性、年齢不明)

I. 出土状況

仰臥伸展葬。取り上げが可能だったのは、頭蓋の一部(上顎骨、下顎骨)と左側脛骨のみである。

II. 人骨の形質

1. 頭蓋

頭蓋の形質は不明である。遺歯と歯槽の状態を歯式で示した。

8	7	6	5	4	/	/	/	3	4	/	/	7	/
/	7	6	5	④	3	2	/	/	/	4	5	/	/

(●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ▼：先天的欠損 ■：未萌出 ／：不明、番号は歯種)

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第1小白歯、5：第2小白歯、6：第1大臼歯、7：第2大臼歯、8：第3大臼歯〕

咬耗度はBrocaの1度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

2. 四肢骨

①脛骨

脛骨は左側骨体を取り上げることができた。計測値は、中央最大径が25mm(左)、中央横径は18mm(左)で、中央断面示数は72.00(左)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周は68mm(左)で、骨体は細い。骨体後面の近位半には一稜が形成されている。骨体の断面形は左側はヘリチカのIV型を呈している。

3. 性別・年齢

性別は、四肢骨の径が小さいことから、女性と推定した。年齢は不明である。

2001-6号墓2号人骨(男性、年齢不明)

I. 出土状況

仰臥伸展葬。頭蓋は取り上げることができなかった。

II. 人骨の形質

大腿骨と脛骨を取り上げることができたが、計測ができたのは脛骨のみである。左右の脛骨の間に骨が存在した。自然の状態ではこの場所には骨は存在しない。保存状態がかなり悪かったが、取り上げる際に踵骨の一部を確認することができた。足根骨がこの位置にあるはずはないので、足首を切断され、両側脛骨の間に移置されたものと思われる。脛骨遠位部の保存状態が悪いので、切断された痕跡の有無を確認することはできなかった。

1. 四肢骨

① 大腿骨

大腿骨は右側の遠位部を取り上げることができた。径は大きい。

② 脛骨

脛骨は左右の骨体を取り上げることができた。径は大きくヒラメ筋線の発達も良好である。骨体の断面形は左右ともにヘリチカのIV型を呈している。計測値は、中央最大径が27mm(右)、29mm(左)、中央横径は22mm(右)、21mm(左)で、中央断面示数は81.48(右)、72.41(左)となり、骨体には扁平性は認められない。骨体周囲は78mm(右)、80mm(左)で、骨体は大きい。

2. 性別・年齢

性別は、大腿骨や脛骨の径が大きいことから、男性と推定した。年齢は不明である。

2001-7号墓人骨(性別、年齢不明)

I. 出土状況

平入り、単体埋葬。今回出土した人骨のうちでもっとも保存状態が悪かった人骨で、人骨はほとんど融解状態か糊状態になっており、取り上げることができなかった。現場で確認できた骨は、頭蓋と大腿骨のみである。

II. 人骨の形質

頭蓋は痕跡状態で、歯冠を1個確認した。また、頭部には朱が残存していた。大腿骨はほとんど溶けかかっており、取り上げることも、観察することもできなかった。残存歯冠は右側の大歯の歯冠であった。咬耗度はBrocaの3度(咬耗が象牙質まで及ぶ)である。

性別、年齢は不明である。

2002-02号墓人骨(性別、年齢不明)

I. 出土状況

妻入り、仰臥伸展葬。残存していたのは頭蓋と右側の大腿骨の一部であるが、取り上げが可能だったのは頭蓋のみである。

II. 人骨の形質

頭蓋は上顎骨と下顎骨のそれぞれ一部のみで、他に遊離歯が残存していた。左側前腕部に1本の鉄鏃が

副葬されていた。頭蓋には赤色顔料(朱)が付着していた。

残存歯と歯槽の状態を歯式で示した。

8	7	6	5	4	3	②	/	/	3	④	⑤	6	7	8	
/	/	6	/	4	3	/	/	/	/	/	/	4	5	6	/

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ▼：先天的欠損 ■：未萌出 ／：不明、番号は歯種】

【1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯】

咬耗度はBrocaの2(咬耗が部分的に象牙質まで及ぶ)度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。

また、歯の咬合形式は不明である。

性別、年齢ともに不明である。

2002-03号墓人骨(女性、熟年)

I. 出土状況

平入り、仰臥伸展葬。刀子が副葬されていた。

II. 人骨の形質

頭蓋、左側鎖骨、左側上腕骨、左右の大腿骨と脛骨および左側の肋骨が残っていたが、取り上げることができたのは頭蓋と左右の大腿骨と脛骨のみであった。大腿骨体は計測できないが、径は著しく細い。頭蓋は、脳頭蓋の前頭半分と下頸骨を取り上げることができた。計測はできないが、頭型は観察によれば中頭型と思われる。縫合は冠状縫合と矢状縫合を観察できたが、両縫合とも内板は癒合閉鎖している。外板は冠状縫合は開離しているが、矢状縫合では部分的に癒合が認められる。また、冠状縫合のすぐ後ろ(左右の頭頂骨)に溝状のくぼみが認められる。前頭骨には少量の赤色顔料(朱)が付着している。眉上弓の隆起は弱く、前頭鱗は垂直に立ち上がっている。

残存歯は次のとおりである。

/	/	6	/	/	2	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	4	/	2	/	/	2	3	4	5	/	/

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ▼：先天的欠損 ■：未萌出 ／：不明、番号は歯種】

【1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯】

咬耗度はBrocaの1度である。なお、風習的抜歯の痕跡は認められない。また、歯の咬合形式は不明である。

性別は、眉上弓の隆起が弱く、前頭鱗が垂直に立ち上がっていることと四肢骨の径が小さいことから、女性と推定した。年齢は、観察できた冠状縫合と矢状縫合の内板が癒合していることから、熟年と思われる。

考 察

1. 頭蓋

まず、頭型を検討してみたい。頭蓋長幅示数を算出できたのは女性1体(2001-3)のみで、この例は78.16となり、示数値は中頭型を示している。脳頭蓋が残っているものはもう1例(2002-03、女性)あり、この例は後頭骨を欠いているが、観察したところでは、頭型は中頭型だったようである。1991年に出土した女性

人骨(1991-1号人骨)は頭蓋長幅示数が80.00で、短頭型であった。表4にこれまで報告したもののうち頭型が判明しているものを示した。長頭型に属するものが3例で、これは高原町の立切と高崎町の原村上である。超短頭型は1例、過短頭型は2例で、前者は立切、後者は国富町の市ノ瀬と高崎町の原村上にみられる。その他は中頭型である。例数が少ないので、女性の頭型については、築池古墳人や宮崎県内での傾向をまだ読み取ることができない。

顎面頭蓋の計測ができたのも女性1例のみである。表5は顎面頭蓋の比較表である。築池2001-3を1991-1と比較してみると、頬弓幅と顎高は両者で大差ないので、コルマンの顎示数(K)はほとんど差がないが、前者は中顎幅が狭く、上顎高がかなり低いので、ウイルビヨーの顎示数(V)はより大きな値になり、上顎示数(K)(V)はより小さな値となる。すなわち、高顎・低下顎という特徴がみられる。これは上顎高は低いが、下顎骨の高径が高いので、顎全体としては高い顎になっているということである。眼窩示数は、右側は1991-1と同値であるが、左側はこれよりも大きい。鼻部の計測値は幅径が狭く、高径も低いが、鼻示数は1991-1と大差ない。

鼻根部の計測ができたのも女性1例のみ(2002-03)である。本例は鼻根部がやや狭く、鼻骨がやや隆起している。鼻根部の幅(前眼窓間幅)は築池1991-1よりも狭く、菫子野古墳人に一致しているが、鼻根横弧長はこれよりも大きいので、鼻根弯曲示数は菫子野、築池1991-1よりも小さく、鼻根部は扁平ではない。前頭突起水平傾斜角は築池1991-1よりも小さく、前頭突起の向きは矢状方向である。また、鼻根角は築池1991-1よりも小さく、鼻根陷凹示数は大きく、鼻骨は築池1991-1よりもやや隆起している(表6)。

2. 四肢骨

(1) 上腕骨

計測ができたのは女性の1例(2001-3)のみで、しかも最大長と頭最大矢状径のみしか計測ができなかつた。最大長は260mm(右)で、短く、菫子野古墳人よりも短い。頭最大矢状径は38mm(右)で、この値はそれほど小さい値ではなく、女性としては普通の大きさである(表7)。

(2) 大腿骨

女性2例の計測が可能であった。最大長は384mm(1例)で、短く、骨体中央周は、73mmと76mmで、いずれも小さい。築池1991-1の骨体中央周も75mmしかなく、築池古墳人女性の大腿骨は細いようである(表8)。

(3) 脊骨

男性1体と女性3体とが計測できた。表9は同じ都城市的菫子野古墳人(男性)との比較表である。築池2001-6-2の骨体周は菫子野古墳人よりも小さく、脛骨の径は菫子野古墳人よりもわずかに小さい。また、中央断面示数は2体の菫子野古墳人よりも大きく、骨体には扁平性は認められない。表10は、女性脛骨の比較表である。今回出土した女性脛骨3例の骨体周は築池1991-1と同大か、それよりもやや小さいが、菫子野古墳人よりは小さい。また、中央断面示数は築池1991-1よりは大きく、菫子野古墳人と同じように70.00を超えており、男性同様女性にも扁平性は認められない。

3. 推定身長

表11は女性の推定身長の比較表である。築池2001-3の上腕骨と大腿骨からの推定身長値は、菫子野古墳人とほぼ一致しており、低身長であるが、身長値は西北九州弥生人の平均値と大差ない値で、著しい低身長値ではない。

要 約

宮崎県都城市下水流町にある築池地下式横穴墓群の2001年と2002年の発掘調査で、人骨が出土した。人骨の保存状態は必ずしも良好なものばかりではなかったが、なかには計測ができるものもあった。出土人骨の人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 7基の地下式横穴墓から8体の人骨が出土した。7基のうち6基では単体埋葬で、平入りは4基、妻入りは2基である。8体のうち男性は1体であるが、女性は5体で、女性の占める割合が高かった。なお、2体埋葬例は男女各1体ずつの埋葬である。
2. 頭蓋長幅示数を算出できたのは女性1体(2001-3)のみで、この例は78.16となり、示数値は中頭型を示している。
3. 顔面の計測ができたのは女性1例のみである。頬骨弓幅131mm、中顎幅94mm、顎高115mm、上顎高(59)mmで、顎示数は87.79(K)、122.34(V)、上顎示数は(45.04)(K)、(62.77)(V)となり、高顎であるが、低上顎である。鼻根部の扁平性はあまり強くない。歯槽性突頭の傾向は認められない。眼窩示数は80.49(右)、85.00(左)となり、右側は中眼窩に、左側は高眼窩に属している。鼻示数は46.81となり、狭鼻に属している。
4. 女性の上腕骨と大腿骨は短かく、四肢骨の骨体は細い。また、男性脛骨もやや小さく、扁平性は男女ともに認められない。
5. 足根骨が不自然な位置から検出されたので、足首から先が切断された可能性があるものが1例みられた(2001-6号墓2号人骨、男性)
6. 推定身長値は女性のみが算出できた。大腿骨からの推定値は147.53cmとなり、低身長値ではあるが、西北九州弥生人なみで、著しい低身長値ではない。
7. 今回築池地下式横穴墓群から出土した古墳人骨は保存状態が必ずしも良好なものばかりではなかったが、被葬者は女性が多く、女性の顎型は中頭型で、顔面に高顎傾向がみられ、鼻根部はあまり扁平ではなく、四肢骨は短くて細く、低身長であった。南九州地域での古墳人骨研究にとって貴重な例を追加することができた。

謝 辞

＜御筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた宮崎県都城市教育委員会の皆様方に感謝致します。＞

参考文献

1. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart : 429-597.
2. 松下孝幸, 1981a : 日守地下式古墳出土の人骨。日守地下式古墳群発掘調査(55-1-4号) (宮崎県文化財調査報告書23) : 169-178, 182-183.
3. 松下孝幸, 1981b : 宮崎県上の原地下式古墳出土の人骨。上の原地下式古墳群発掘調査 (宮崎県文化財調査報告書24) : 114-129.
4. 松下孝幸・他、1982a : 宮崎県国富町本庄28号地下式古墳出土の人骨。宮崎考古、8: 16-20.

5. 松下孝幸・他、1982b：鹿児島県諭防野地下式土槨3号出土の人骨。諭防野地下式土槨3号（大口市埋蔵文化財調査報告書2）：11-15。
6. 松下孝幸・他、1983a：鹿児島県成川遺跡出土の古墳時代人骨。成川遺跡（鹿児島県埋蔵文化財調査報告書24）：236-261。
7. 松下孝幸・他、1983b：宮崎県高原町旭台地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、26：78-107。
8. 松下孝幸・他、1983c：宮崎県都城市菓子野地下式横穴出土の古墳時代人骨。都城・中之城跡、菓子野地下式横穴（都城市文化財調査報告書3）：105-145。
9. 松下孝幸・他、1983d：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第7時発掘調査報告（豊北町埋蔵文化財調査報告2）：19-30。
10. 松下孝幸、1984a：宮崎県野尻町大森地下式横穴出土の古墳時代人骨。宮崎県文化財調査報告書、第27集：53-111。
11. 松下孝幸、1984b：宮崎市路江横穴出土の古墳時代人骨。宮崎考古、第9号：34-48。
12. 松下孝幸、1984c：川内市横岡古墳Ⅷ号墳出土の古墳時代人骨。外川江遺跡・横岡古墳高城川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書（30））：142-146。
13. 松下孝幸、1984d：鹿児島県大隅半島の古墳時代人骨。鹿児島考古、第18号：171-181。
14. 松下孝幸、1984e：鹿児島県大口市源諭防野地下式土槨5号墳出土の古墳時代人骨。諭防野地下式土槨5号（鹿児島県大口市埋蔵文化財発掘調査報告書3）：15-28。
15. 松下孝幸・他、1986a：宮崎県国富町市の瀬地下式横穴墓群出土の古墳時代人骨。国富町文化財資料、第4集：145-185。
16. 松下孝幸、1986b：鹿児島県串良町岡崎古墳群1号地下式横穴墳出土の古墳時代人骨。岡崎4号墳・1号地下式横穴（串良町埋蔵文化財発掘調査報告書（1））付篇：1-16。
17. 松下孝幸、1987：鹿児島県高山町塚崎古墳群出土の古墳時代人骨。鹿児島考古。第21集：57-70。
18. 松下孝幸、1988：宮崎県高崎町出土の古墳時代人骨。高崎町文化財調査報告書、第1集：57-158。
19. 松下孝幸、1989a：宮崎県高崎町の古墳時代人骨。宮崎考古石川恒太郎先生米寿記念特集号上巻：90-117。
20. 松下孝幸・他、1989b：宮崎市柿木原地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。柿木原地下式横穴墓56-1号・江田原第1遺跡（宮崎市文化財調査報告書）：13-30。
21. 松下孝幸、1990a：鹿児島県の上地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。宮崎考古24：49-67。
22. 松下孝幸、1990b：南九州地域における古墳時代人骨の人類学的研究。長崎医学雑誌、65(4)：781-804。
23. 松下孝幸・他、1991：宮崎県西諸県郡高原町立切地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。立切地下式横穴墓群（入木地区团体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）高原町文化財調査報告書第1集付論：1-106。
24. 松下孝幸・他、1992：宮崎県都城市築池地下式横穴墓出土の古墳時代人骨。西原第2遺跡・築池地下式横穴墓1991-1号・久玉遺跡・松原地区第II-2遺跡・横尾原遺跡・黒土遺跡（都城市文化財調査報告書第16集）：79-94。
25. 松下孝幸、1993：宮崎県の古墳時代人骨。宮崎県史・資料編 考古2：975-986。
26. 松下孝幸、1994：地下式横穴墓の人骨。考古学ジャーナル380（1994、10月号）：26-29。
27. 内藤芳彌、1973：灰塚地下式横穴人骨。灰塚遺跡（九州総貿自動車道埋蔵文化財調査報告（2））：72-77。
28. 内藤芳彌、1974：人骨とその埋葬方法。大森遺跡(1)(瀬ノ口地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告)：55-62。
29. 小片丘彦・他、1986：宮崎県菓子野地下式横穴出土の人骨。都城市文化財調査報告書、第4集：47-66。
30. 小片丘彦・他、1996：16号支線道路横穴墓群出土の人骨について。西都原地区遺跡（西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集）：128-142。

31. 佐伯和信・他、1991：宮崎県えびの市広畠遺跡出土の古墳時代人骨。広畠遺跡（えびの市文化財調査報告書第7集）：1-66。
32. 鈴木 尚、1963：日本人の骨。岩波書店、東京。

表4 頭型(女性・頭蓋長幅示数)(Table4. Female cranial index)

遺跡名(人骨番号)	地域名	頭蓋長幅示数	頭型
篠池(1991-1)	都城市	80.00	短頭型
篠池(2001-3)	都城市	78.16	中頭型
菫子野(57-5-2)	都城市	76.70	中頭型
市ノ瀬(9-2)	国富町	85.54	過短頭型
東二原(2-4)	小林市	81.61	短頭型
東二原(8-1)	小林市	77.72	中頭型
立切(4-1)	高原町	[91.63]	超短頭型
立切(26-1)	高原町	78.98	中頭型
立切(26-2)	高原町	[73.37]	長頭型
立切(31)	高原町	79.31	中頭型
立切(38-1)	高原町	(78.44)	中頭型
立切(38-4)	高原町	78.03	中頭型
立切(40-2)	高原町	84.12	短頭型
立切(63-5)	高原町	74.16	長頭型
原村上(46-1)	高崎町	[72.63]	長頭型
原村上(5-1)	高崎町	[75.27]	中頭型
原村上(6-1)	高崎町	80.23	短頭型
原村上(7-1)	高崎町	83.93	短頭型
原村上(7-2)	高崎町	(85.98)	過短頭型
純善小学校(46-1)	高崎町	[77.78]	中頭型
広畑(ST-04)	えびの市	[79.46]	中頭型
広畑(ST-11-2)	えびの市	[75.82]	中頭型
広畑(ST-11-3)	えびの市	[77.27]	中頭型
広畑(ST-13-1)	えびの市	[75.98]	中頭型

() : 推定値、[] : 片側×2

表5 顔面頭蓋(女性、mm、度)(Table 5. Comparison of female facial measurements and indices)

	篠池 2001-3 宮崎県 (松下)	篠池 1991-1 宮崎県 (松下・他)	
		M	M
		M	M
45.	頬骨弓幅	131	132
46.	中頭幅	94	98
47.	頭高	115	114
48.	上顎高	(59)	68
47/45	顎示数(K)	87.79	86.36
48/45	上顎示数(K)	(45.04)	51.52
47/46	顎示数(V)	122.34	116.33
48/46	上顎示数(V)	(62.77)	69.39
40+45+47/3	顔面モルズス	—	113.00
50/44	眼窩間示数	19.15	20.62
51.	眼窩幅(右)	41	41
	(左)	40	40
52.	眼窩高(右)	33	33
	(左)	34	32
52/51	眼窩示数(右)	80.49	80.49
	(左)	85.00	80.00
54.	鼻幅	22	25
55.	鼻高	47	53
54/55	鼻示数	46.81	47.17
72.	全側面角	(86)	85
73.	鼻側面角	88	90
74.	齒槽側面角	(79)	72

表6 鼻根部(女性、mm、度)(Table 6. Comparison of female nasal root measurements and indices)

		築池	築池	菫子野
		2001-3	1991-1	57-5-2
		宮崎県 (松下)	宮崎県 (松下・他)	宮崎県 (松下・他)
		M	M	M
50.	前眼窓間幅	18	20	18
50A.	鼻横横弧長	22	24	20
50/50A	鼻根骨曲示数	81.82	83.33	90.00
57.	鼻骨最小幅	9	8	7
44.	両眼窓幅	94	97	96
50/44	眼窓間示数	19.15	20.62	18.75
a.	前頭突起上幅(右)	10	7	10
	(左)	7	6	10
b.	前頭突起水平傾斜角	92	114	71
c.	G-N投影距離	1	0	4
d.	鼻根角	140	160	138
e.	G-R距離	29	37	30
f.	垂線高	5	3	5
t/e	鼻根陷凹示数	17.24	8.11	16.67
77.	鼻頸骨角	150	—	—
Fa	fmo間距離	93	—	—
Fh	垂線高	12	—	—
Fh/Fa	顎面扁平示数	12.90	—	—

表7 上腕骨計測値(女性、右、mm)(Table 7. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

		築池	築池	菫子野
		2001-3	1991-1	57-5-2
		宮崎県 (松下)	宮崎県 (松下・他)	宮崎県 (松下・他)
		M	M	M
1.	上腕骨最大長	260	—	264
2.	上腕骨全長	—	—	259
5.	中央最大径	—	—	21
6.	中央最小径	—	—	15
7.	骨体最小周	—	47(左)	55
7(a).	中央周	—	—	61
10.	頭最大矢状径	38	—	37
6/5	骨体断面示数	—	—	71.43
7/1	長厚示数	—	—	20.83

表8 大腿骨(女性、右、mm)(Table 8. Comparison of measurements and indices female right femora)

		築池	築池	築池	菫子野
		2001-1	2001-3	1991-1	57-5-2
		宮崎県 (松下)	宮崎県 (松下)	宮崎県 (松下・他)	宮崎県 (松下・他)
		M	M	M	M
1.	最大長	—	384	—	385
2.	自然位全長	—	—	—	—
6.	骨体中央矢状径	21	22	25	25
7.	骨体中央横径	24	25	23	23
8.	骨体中央周	73	76	75	78
9.	骨体上横径	26	29	27	29
10.	骨体上矢状径	20	20	20	22
6/7	骨体中央断面示数	87.50	88.00	108.70	108.70
10/9	上骨体断面示数	76.92	68.97	74.07	75.86

表9 膝骨(男性、右、mm)(Table 9. Comparison of measurements and indices male right tibiae)

	築池 2001-6-2 宮崎県 (松下)	菫子野 55-1-1 宮崎県 (松下・他)	菫子野 57-5-3 宮崎県 (松下・他)
	M	M	M
1. 膝骨全長	—	—	—
1a. 膝骨最大長	—	—	—
8. 中央最大径	27	30	31
8a. 栄養孔位最大径	—	33	35
9. 中央横径	22	22	20
9a. 栄養孔位横径	—	23	19
10. 骨体周	78	81	80
10a. 栄養孔位周	—	91	87
10b. 最小周	—	72	70
9/8 中央断面示数	81.48	73.33	64.52
9a/8a 栄養孔位断面示数	—	69.70	54.29
10b/1 長厚示数	—	—	—

表10 膝骨(女性、右、mm)(Table 10. Comparison of measurements and indices female right tibiae)

	築池 2001-1 宮崎県 (松下)	築池 2001-3 宮崎県 (松下)	築池 2001-6-1 宮崎県 (松下)	築池 1991-1 宮崎県 (松下・他)	菫子野 57-5-2 宮崎県 (松下・他)
	M	M	M	M	M
1. 膝骨全長	—	—	—	—	317
1a. 膝骨最大長	—	—	—	—	327
8. 中央最大径	23	26	25	(左) 26	27
8a. 栄養孔位最大径	—	—	—	— 30	30
9. 中央横径	18	19	18	— 18	20
9a. 栄養孔位横径	—	—	—	— 21	20
10. 骨体周	67	71	68	(左) 71	73
10a. 栄養孔位周	—	—	—	— 81	78
10b. 最小周	—	—	—	—	65
9/8. 中央断面示数	78.26	73.08	72.00	(左) 69.23	74.07
9a/8a 栄養孔位断面示数	—	—	—	— 70.00	66.67
10b/1 長厚示数	—	—	—	—	20.50

表11 推定身長値(女性、右、cm)(Table 11. Comparison of estimated male statures)

		築池 2001-3 宮崎県 (松下)	菫子野 57-5-2 宮崎県 (松下・他)
		M	M
Pearsonの式	上腕骨 (右)	—	144.18
	(左)	143.08	—
	橈骨 (右)	—	152.76
	(左)	—	153.10
	大脛骨 (右)	147.53	147.73
	(左)	—	—
	脛骨 (右)	—	151.68
	(左)	—	—
藤井の式	上腕骨 (右)	—	144.13
	(左)	143.48	—
	橈骨 (右)	—	149.92
	(左)	—	150.95
	大脛骨 (右)	147.06	147.28
	(左)	—	—
	脛骨 (右)	—	149.81
	(左)	—	—

表12 脣顎蓋(mm)(Cervarctia)

	藝術 2001-3 女性
1.	顎蓋最大長
8.	顎蓋最大幅
12.	バジオ・ブレグマ高
8/1	顎蓋長幅示数
17/1	顎蓋高点示数
17/8	顎蓋幅示数
1+8+17/3	顎蓋モズルス
5.	顎蓋長
9.	最小前額幅
10.	最大前額幅
11.	両耳幅
12.	最大後頭幅
13.	乳突幅
7.	大後頸孔長
16.	大後頸孔幅
16/7	大後頸示数
23.	顎蓋水平高
24.	横弧長
25.	正中矢状弧長
26.	正中矢状側頭幅長
27.	正中矢状闊面顎長
28.	正中矢状側頭顎長
29.	正中矢状側頭顎長
30.	正中矢状頭顎長
31.	正中矢状側頭顎長
29/26	矢状前額示数
30/27	矢状顎顎示数
31/28	矢状後頭示数

表14 鼻根部(mm,度)(Nasal root)

	藝術 2001-3 女性
50.	前額窪開幅
50A.	鼻根部延長
50/50A	鼻根部曲示数
57.	鼻骨最小幅
44.	両側鼻幅
50/44	顎窪開示数
a.	前額突起上幅(右) (左)
	7
b.	前額突起水平縮頸角
c.	G-N投影距離
d.	鼻成角
e.	G-R距離
f.	距離高
1/e	鼻根屈屈示数
77.	鼻顎角
Fa	Imo距離
Fh	垂直高
FhFa	顎面隔離示数
	12.90

表13 脣面顎蓋(mm,度)(Facial skeleton)

	藝術 2001-3 女性
40.	顎長
41.	側頸長
42.	下頸長
43.	上頸傾
45.	頸骨弓幅
46.	中頸幅
47.	頸高
48.	上顎高 (59)
47/45	顯示示数(K)
46/45	上顎示数(K)
47/46	顯示示数(V)
48/46	上顎示数(V)
49+45+47/3	顎蓋モズルス
50.	前額窪開幅
44.	両側窪幅
50/44	顎窪開示数
51.	顎窪幅(右)
	(左)
52.	顎窪高(右)
	(左)
52/51	顎窪示数(右)
	(左)
54.	鼻幅
55.	鼻高
54/55	鼻示数
55(1).	額状口高
56.	鼻脊長
57.	鼻骨最小幅
57(1).	鼻骨最大幅
60.	上額歯槽長
61.	上額歯槽幅
62.	口蓋長
63.	口蓋幅
64.	口蓋高
61/60	上額歯槽示数
63/62	口蓋示数
64/63	口蓋高示数
72.	全側面角
73.	鼻側面角
74.	齒槽側面角
	(79)

表15 下顎骨(mm,度)(Mandibula)

	藝術 2001-3 女性
65.	下顎闊面突起幅
65(1).	下顎筋突起幅
66.	下頸角幅
67.	前下頸幅
68.	下頸長
68(1).	下頸長
69.	オトガイ高
69(1).	下顎体高(右)
	(左)
69(2).	下顎体基(右)
	(左)
70.	根高(右)
	(左)
70(1).	前枝高(右)
	(左)
70(2).	最小枝高(右)
	(左)
70(3).	下顎切痕高(右)
	(左)
71(1).	下顎切痕幅(右)
	(左)
71.	枝幅(右)
	(左)
71a.	最小枝幅(右)
	(左)
79.	下顎枝角(右)
	(左)
66/65	下顎槽示数
68/65	根長示数
68(1)/65	根表示数
69(2)/69	下顎高示数(右)
	(左)
71/70	下顎枝示数(右)
	(左)
71a/70(2)	下顎枝示数(右)
	(左)
70(3)/71(1)	下顎切痕示数(右)
	(左)
70(3)/71(1)	41.94
	44.83

表16 鎖骨(mm) (Clavica)

	築池	
	2001-3	
	女性	
1.	鎖骨最大長(右)	—
	(左)	—
2 a	骨体弯曲高(右)	—
	(左)	—
2(1)	肩峰端弯曲高(右)	—
	(左)	—
4.	中央垂直徑(右)	8
	(左)	8
5.	中央矢状徑(右)	11
	(左)	11
6.	中央周(右)	34
	(左)	33
6/1	長厚示數(右)	—
	(左)	—
2 a/1	彎曲示數(右)	—
	(左)	—
4/5	鎖骨斷面示數(右)	72.73
	(左)	72.73
2(1)/1	肩峰端弯曲示數(右)	—
	(左)	—

表18 大腿骨(mm) (Femur)

	築池	築池
	2001-1	2001-3
	女性	女性
	右	右
1.	最大長	—
2.	自然位全長	—
3.	最大軸子長	—
4.	自然位軸子長	—
6.	骨体中央矢状徑	21
7.	骨体中央橫徑	24
8.	骨体中央周	73
9.	骨体上橫徑	26
10.	骨体上矢状徑	20
15.	頸垂直徑	—
16.	頸矢狀徑	—
17.	頸周	—
18.	頸垂直徑	—
19.	頸橫徑	—
20.	頸周	—
21.	上頸幅	—
8/2	長厚示數	—
6/7	骨体中央斷面示數	87.50
10/9	上骨体斷面示數	76.92
		68.97

表17 上腕骨(mm) (Humerus)

	築池	
	2001-3	
	女性	
	左	
1.	上腕骨最大長	260
2.	上腕骨全長	—
3.	上端幅	—
3(1).	横上徑	—
4.	下端幅	—
5.	中央最大徑	—
6.	中央最小徑	—
7.	骨体最小周	—
7(a).	中央周	—
8.	頸周	—
9.	頸最大橫徑	—
10.	頸最大矢狀徑	38
11.	滑車幅	—
12.	小頭幅	—
12(a).	滑車幅および小頭幅	—
13.	滑車深	—
14.	肘頭窩幅	—
15.	肘頭窩深	—
6/5	骨体斷面示數	—
7/1	長厚示數	—

表19 膝骨(mm)(Tibia)

	築池		築池			
	2001-6-2		2001-1			
	男性	女性	女性	女性		
1. 膝骨全長(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
1a. 膝骨最大長(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
1b. 膝骨長(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
2. 顆距間距離(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
3. 最大上端幅(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
3a. 上内関節面幅(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
3b. 上外関節面幅(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
4a. 上内関節面深(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
4b. 上外関節面深(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
6. 最大下端幅(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
7. 下端矢状径(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
8. 中央最大径(右)	27	23	26	—		
(左)	29	—	—	25		
8a. 栄養孔位最大径(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
9. 中央横径(右)	22	18	19	—		
(左)	21	—	—	18		
9a. 栄養孔位横径(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
10. 骨体周(右)	78	67	71	—		
(左)	80	—	—	68		
10a. 栄養孔位周(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
10b. 最小周(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
9/8. 中央断面示数(右)	81.48	78.26	73.08	—		
(左)	72.41	—	—	72.00		
9a/8a 栄養孔位断面示数(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		
10b/1 長厚示数(右)	—	—	—	—		
(左)	—	—	—	—		

表20 推定身長値(cm)(Stature)

	築池			
	2001-3			
	女性			
Pearsonの式	上腕骨(右)	—		
	(左)	143.08		
	桡骨 (右)	—		
	(左)	—		
	大脛骨(右)	147.53		
	(左)	—		
	脛骨 (右)	—		
	(左)	—		
藤井の式	上腕骨(右)	—		
	(左)	143.48		
	桡骨 (右)	—		
	(左)	—		
	大脛骨(右)	147.06		
	(左)	—		
	脛骨 (右)	—		
	(左)	—		

表21 形態小変異(Non-metroric crania variants)

	築池		築池	
	2001-1		2001-3	
	女性	女性	女性	女性
	右 左	右 左	右 左	右 左
1. Medial palatine canal	/ /		- -	
2. Pterygospinous foramen	/ /		- -	
3. Hypoglossal canal bridging	/ /		- -	
4. Clinoid bridging	/ /		/ /	
5. Condylar canal absent	/ /		- +	
6. Tympanic dehiscence,Foramen of Huschke(>1mm)	/ /		- -	
7. Jugular foramen bridging	/ /		- -	
8. Precondylar tubercle	/ /		- -	
9. Supra-orbital foramen (incl.frontal foramen)	/ /		+ -	
10. Accessory infraorbital foramen	/ /		- -	
11. Zygo-facial foramen absent	/ /		- -	
12. Aural exostosis	- /		- -	
13. Metopism	-		- -	
14. Os incae	/		- -	
15. Ossicle at the lambda	/		- -	
16. Parietal notch bone	- /		- -	
17. Transverse zygomatic suture(>5mm)	/ /		- -	
18. Asterionic ossicle	- /		- -	
19. Occipitomastoid ossicle	/ /		+ -	
20. Epipteric ossicle	/ /		- -	
21. Frontotemporal articulation	/ /		- -	
22. Biasterionic suture(>10mm)	+ /		- -	
23. Mylohyoid bridging	/ /		- -	
24. Accessory mental foramen	/ /		- -	
25. Mandibular torus	/ /		- -	
26. 滑車上孔	/ /		/ +	

じゅうさんづか
十三束第2遺跡
(第2次調査)

例　言

- 1 本書は北諸県農林振興局の農道整備事業にともない、平成15年度に実施した十三東第2遺跡（第2次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は都城市教育委員会事務局が主体となり、同市文化課主事久松亮が担当した。
- 3 遺構実測図の作成は、作業員の協力を得て久松が行い、すべてのトレースは久松が行った。
- 4 本書に用いた方位は、座標北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 5 本書に掲載した遺物実測図の作成は伊鹿倉康子・奥登根子が行い、トレースは久松が行った。なお、本書に掲載した実測図の内、掲載番号31～33の遺物の実測・トレースについては株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
- 6 遺構・遺物の写真撮影は作業員の助力を得て、久松が行った。
- 7 空中写真は、同時期に当調査区の隣接地にて実施された、緊急地方道路整備事業上水流7号線に伴う十三東第2遺跡発掘調査にて撮影されたもの一部を流用した。
- 8 本書に用いた略記号は次の通りである。

SC — 土坑 SD — 溝状遺構

- 9 出土遺物・写真・図面記録等は、都城市文化課第1・第2分室および都城市文化財収蔵庫に保管されている。

目　次

1 調査の概要.....	129
2 遺構.....	129
3 遺物.....	133
4 まとめ.....	137
写真図版.....	138

挿図目次

第1図 遺構分布図.....	129
第2図 調査区北壁土層断面図.....	130
第3図 SC 01・02・03実測図.....	131
第4図 SC 04・05・06、SD 01実測図.....	132
第5図 出土遺物実測図（1）.....	133
第6図 出土遺物実測図（2）.....	134
第7図 出土遺物実測図（3）.....	135

1 調査の概要

調査は平成15年7月31日から8月29日にかけて実施した。同時に当調査の原因となった新設道路と合流する市道上水流7号線の拡幅工事に伴う発掘調査も実施されている。この調査も当調査と同様に都城市教育委員会事務局が主体となって実施し、当調査と同じく久松亮が担当した。上水流7号線拡幅工事に伴う発掘調査現場は、現道と電柱によって5つの区画に分けられるため、それぞれA～E区と呼称していた。これとの混同を避けるため、調査中は当調査区を十三東第2遺跡F地区と呼称していたが、本書では「十三東第2遺跡」とする。

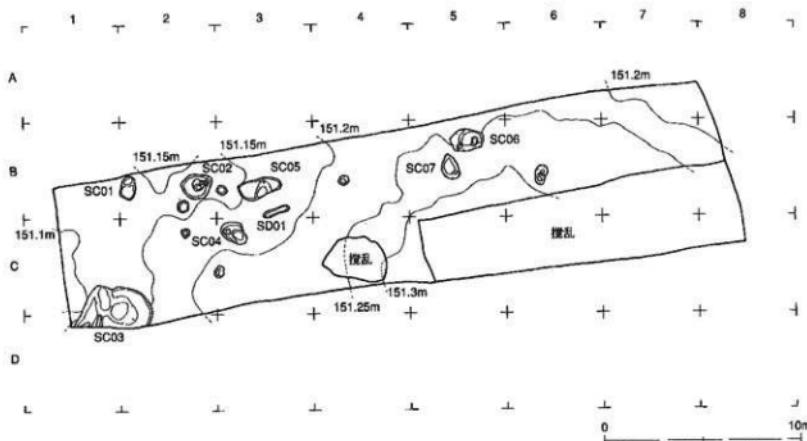
調査は重機にて表土を剥いだ後、遺物包含層を人力にて掘り下げ、御池降下軽石層上にて遺構検出を行った。表土剥ぎの結果、調査区南東部は近年のゴボウ作付けにより、遺物包含層、遺構検出面とも破壊を受けていることが明らかであったため、調査区から除外し廃土置き場とした。その直ぐ西側には直径2m程度の楕円形の黒色土の落ち込みがあった。深さは1.6m程度で、埋土中よりの遺物の検出もほとんど無く、埋土そのものも、シラスや御池降下軽石、黒色土などが不規則に混じりながら堆積していることから、遺構ではなく近年の耕作等によるものであると判断した。

遺跡の基本層序は、1層：現表土、2層：御池降下軽石をまばらに含む黒色弱粘質シルト層、3層：御池降下軽石をまんべんなく含む黒色弱粘質シルトと暗黄褐色弱粘質シルトの混層、4層：御池降下軽石をまんべんなく含む暗黄褐色弱粘質シルト層、5層：御池降下軽石を多量に含む暗黄褐色弱粘質シルト層（御池降下軽石層への漸移層）、6層：御池降下軽石層、という順で堆積する。

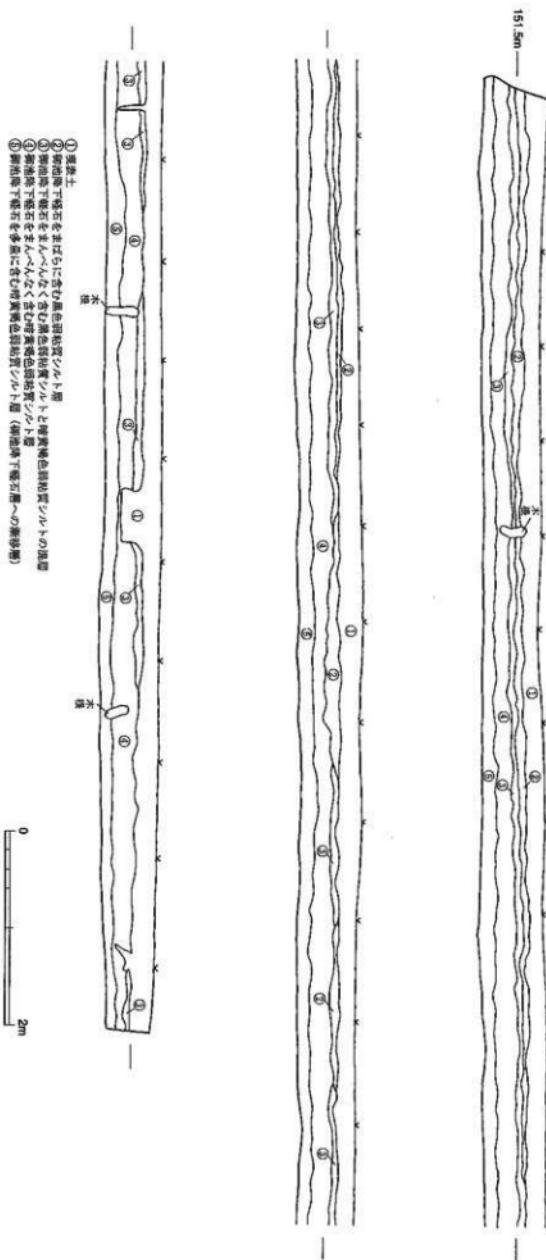
調査記録のため5mグリッドを設定し、便宜上北から南へアルファベットでA、B、C…、西から東へ算用数字で1、2、3…とし、その組み合わせで呼称した。

2 遺構

当遺跡の遺物包含層は暗黄褐色土層であり、遺構検出の基準となる御池降下軽石層と色調が近いため、遺構検出は困難をきわめた。確認できたのは、土坑7基と、溝状遺構1条、ピット6基である。



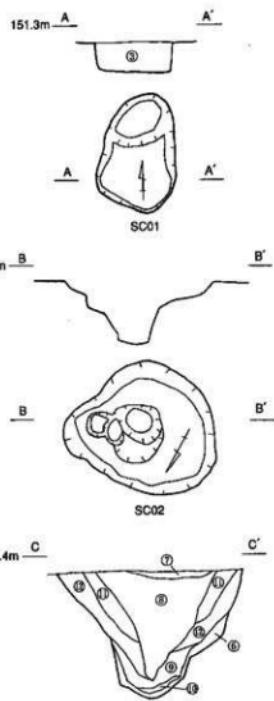
第1図 遺構分布図



第2図 調査区北壁土層断面図

SC01

調査区グリッドB2で検出した土坑である。長軸1.2m、短軸75~80cmの楕円形に近いプランで、検出面からの掘り込みは約30cmである。埋土中より、縄文後期、市来式に分類できる土器片(第5図、9)を検出している。

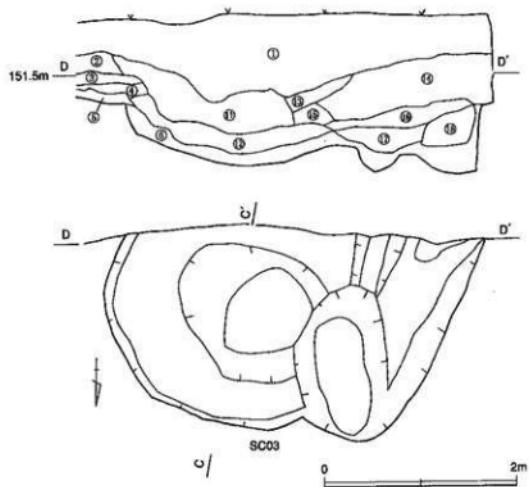


SC02

調査区グリッドB2で検出した土坑である。検出時はピットと思われたが、直径1.4mの円形に近いプランの土坑がピットより切られており、検出時はピットのみを検出したものと思われる。土坑部から縄文後期、指宿式に分類できる土器片(第5図、1)が出土している。

SC03

調査区グリッドC1~2で検出した土坑である。長軸約1.5m、短軸約0.8m、深さ約2mの楕円状の土坑に直径約2.5mの円形の土坑が切られている。楕円状土坑の埋土は部分的に御池路下輕石が層状に堆積した黒色土であり、円形土坑の埋土は黒色土を中心で検出面最上部では文明降下輕石(文明年間、15世紀後半に噴出した桜島起源の降下輕石)が堆積していた。円形土坑の底には、やや硬化した黒色土がみられた。黒色土中より縄文晚期の精製深鉢の口縁部(第6図、24)のほか弥生土器の破片を数個検出したが小片のため図化できなかった。

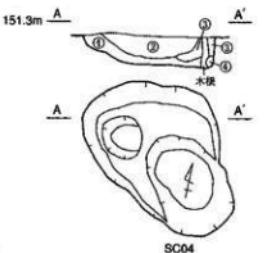


- ① 黒色土
- ② 御池路下輕石をまばらに含む黒色弱粘質シルト層
- ③ 御池路下輕石をまんべんなく含む黒色弱粘質シルトと堆積黒色弱粘質シルトの混層
- ④ 御池路下輕石をまんべんなく含む堆積黒色弱粘質シルト層
- ⑤ 御池路下輕石を多量に含む堆積黒色弱粘質シルト層(御池路下輕石層への移層部)
- ⑥ 御池路下輕石層
- ⑦ 文明降下輕石及び粗粒火山灰層
- ⑧ 粗粒下輕石の中粒・大粒をまばらに含む黒色弱粘質シルト層
- ⑨ 削除路下輕石と黒色弱粘質シルトの混層
- ⑩ 黒色弱粘質シルト層(やや硬化)
- ⑪ 御池路下輕石の中粒を極端に、小粒をまんべんなく含む黒色弱粘質シルト層
- ⑫ 御池路下輕石をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑬ 御池路下輕石の大粒を多く極端に、中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑭ 御池路下輕石の大粒をまばらに、小粒・中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑮ 御池路下輕石の大粒をまばらに、小粒・中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑯ 御池路下輕石の大粒を多く極端に、中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑰ 御池路下輕石層(二次堆積)

第3図 SC01・02・03実測図

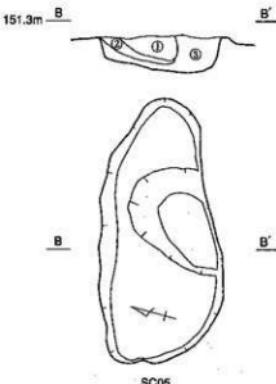
SC04

グリッドC 3で検出した土坑である。長軸1.5m、短軸0.7~1mの楕円形に近いプランで、検出面からの深さ約20cmである。埋土中からの遺物の出土は無かった。



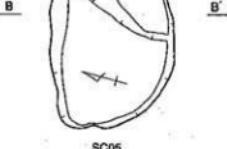
SC05

グリッドB 3で検出した土坑で、長軸2.2m、短軸0.8~1mの楕円形に近いプランである。検出面からの深さ約30cmで、当調査で検出した遺構では珍しく黒色土の埋土を持つ。黒色土と黄褐色土の混層部から縄文後期の土器片（第6図、18）が出土している。



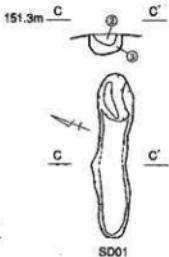
SC06

グリッドB 5で検出した土坑で、長軸1.8m、短軸1.2mの楕円形プランである。検出面からの深さ約60cmで、底部にピット状の落ち込みがある。埋土中より縄文後期の土器片を検出したが、小片のため固化できなかった。



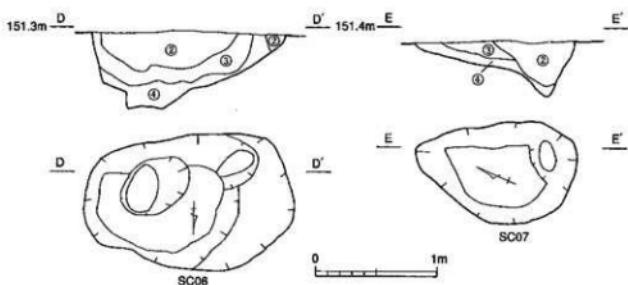
SC07

SC06の直ぐ南で検出した土坑で、長軸1.4m、短軸0.8mの楕円形に近いプランである。断面形は南側に向かい掘るやかに傾斜しつつ掘り込まれており、南側にピット状の落ち込みを持つ。埋土中からの遺物の出土は無かった。



SD01

SC05のすぐ南側で検出した東西方向に走る溝状遺構で、長さ1.4m、幅約20cm、検出面からの深さ約20cmである。東端部に落ち込みがある。あるいはSC07に近い形状の土坑である可能性もある。埋土中からの遺物の出土は無かった。



- ① 別挖跡下根石をまんべんなく含む黑色泥質シルト層
- ② 別挖跡下根石をまんべんなく含む黒色泥質シルト上層
黒色泥質シルトの乱れ
- ③ 別挖跡下根石をまんべんなく含む灰褐色の白粉質シルト層
- ④ 別挖跡下根石を多量に含む埋
黄褐色泥質シルト層

第4図 SC04・05・06、SD01実測図

3 遺物

1・2は指宿式土器で、外面に屈曲した沈線文が施されている。3～13は市来式土器で、三角形状に厚くなった口縁部に沈線文と貝殻腹縁部による刺突文を組み合わせて施文してあるものがほとんどである。12は深鉢で、底部に葉脈痕が観察できる。

14～20・25は縄文後期の深鉢の口縁部で、沈線文や貝殻刺突文、またはそれらを組み合わせて施文されている。22は縄文後期の深鉢の底部で、磨耗しているが外面に指による調整痕が観察できる。

23は小片のため器種は不明であるが、縄文後期末の土器の口縁部で沈線文が施されている。

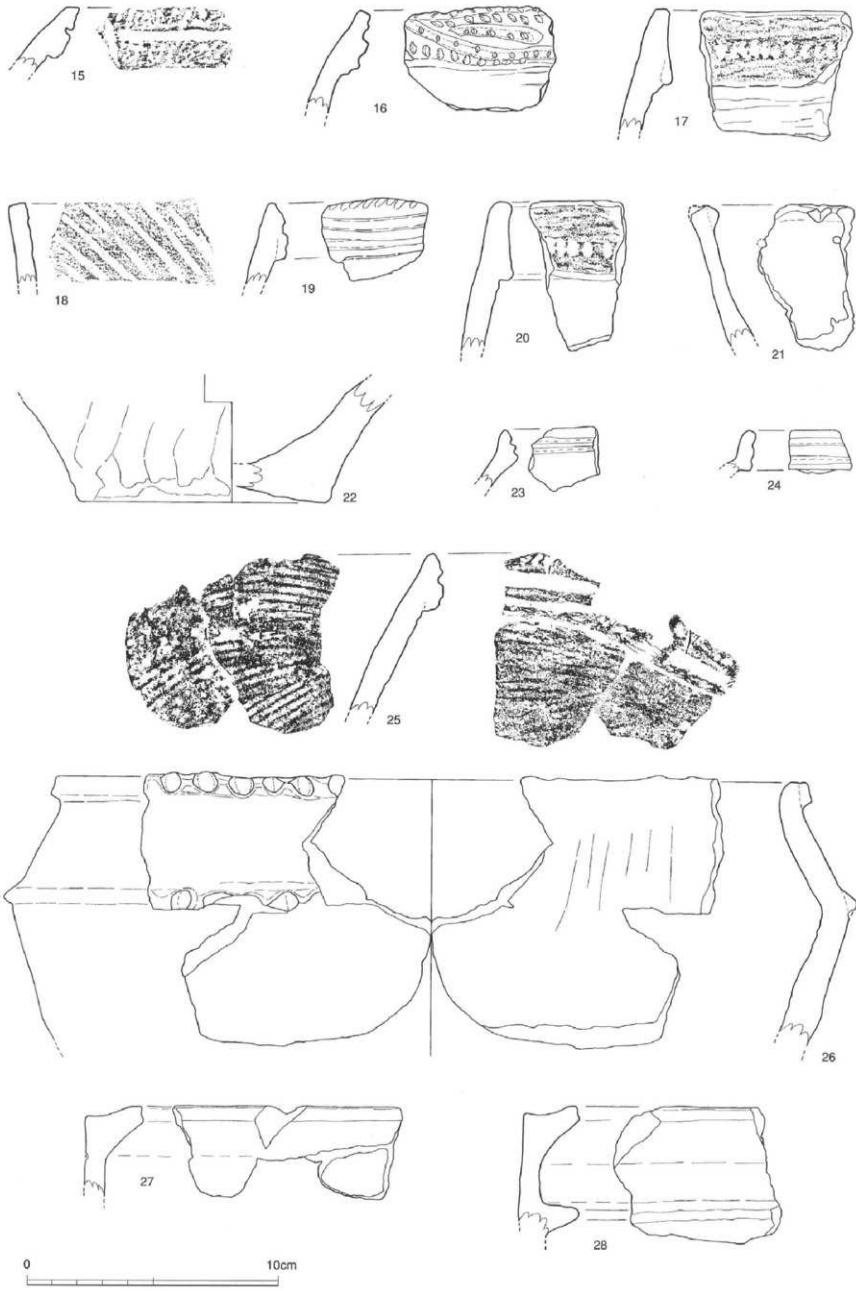
24は縄文晩期の深鉢で、内外面ともミガキにより仕上げられている。21・26は縄文晩期末の夜臼式土器で、21は刻み目突帯の直ぐ下に、棒状の施文具による刺突文が施されている。

27・28は弥生中期の甕の口縁部で、28はくの字状に外反した口縁の下に台形状突帯を有する。

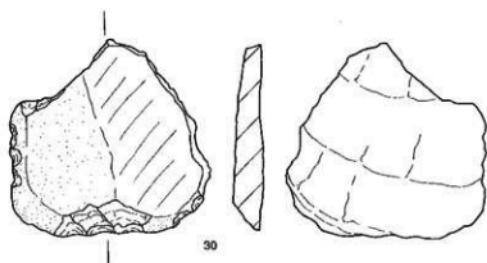
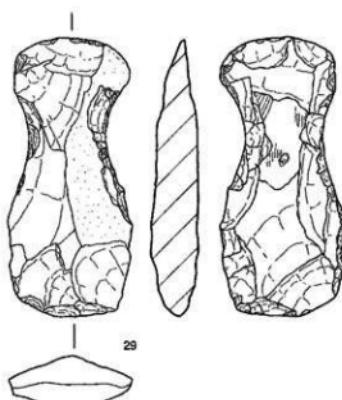
29は石斧で、蓑着を意図したと思われる擦痕が確認できる。30はS C O 3 黒色土中より出土し、石皿の一部と思われる。31は黒曜石製の石鎚である。32・33は黒曜石の剥片である。



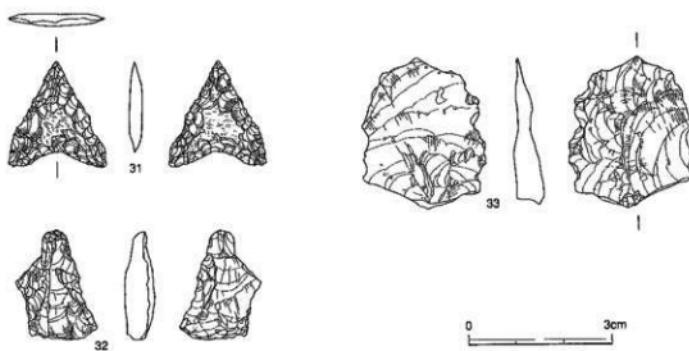
第5図 出土遺物実測図（1）



第6図 出土遺物実測図（2）



0 10cm



0 3cm

第7図 出土遺物実測図(3)

番号	地区	層	器種	部位	調整（内）	調整（外）	年代	備考
1	S C 0 2	3	深鉢	側部	ナデ	ナデ	縄文後期	指宿式土器 沈線文。
2	B 6	5	深鉢	側部	条痕後ナデ？	ナデ	縄文後期	指宿式土器 沈線文。
3	B 2	4	深鉢	口縁部	上部ナデ 下部貝殻条痕	ナデ	縄文後期	市来式土器 口縁部と胴部に沈線文。
4	C 3	4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	市来式土器 刺突文。
5	B 3	5	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	縄文後期	市来式土器 刺突文。
6	C 1	5	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	市来式土器 口縁部に沈線文と刺突文の組み合わせ。
7	C 4	5	深鉢	口縁部	ナデ	貝殻条痕	縄文後期	市来式土器 刺突文。外側にスス付着。
8	C 1	4	台付皿	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	市来式土器 刺突文。
9	S C 0 1	3	深鉢	口縁部	貝殻条痕	上部刺突文 下部貝型条痕	縄文後期	市来式土器 沈線文と貝殻腹縁部、棒状施文具による刺突文の組み合わせ。
10	C 3	5	深鉢	口縁部		工具痕	縄文後期	市来式土器 内外面とも磨耗している。
11	B 5	4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	市来式土器 刺突文。
12	C 3	5	深鉢	底部	ナデ	貝殻条痕	縄文後期	市来式土器 葉脈痕有り。 (反転復元)
13	C 3	4	深鉢	口縁部	ナデ	上部ナデ 下部貝殻条痕	縄文後期	市来式土器 口縁部2本の沈線の間に刺突文有り。
14	C 3	4	深鉢	口縁部		ナデ	縄文後期	帯部に沈線文有り。 内面すべて剥落。
15	C 3	4	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	沈線文と刺突文の組み合わせ。
16	B 3	4	深鉢	口縁部	貝殻条痕	ナデ	縄文後期	沈線内に刺突文が施されている。
17	B 6	4	深鉢	口縁部	条痕後ナデ？	条痕後ナデ？	縄文後期	刺突文。内外面磨耗。
18	S C 0 5	3	深鉢	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期	斜めに平行な沈線文。
19	C 3	5	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	縄文後期	口縁部上部に貝殻腹縁部による刺突文、下部に沈線文。
20	B 5	4	深鉢	口縁部	条痕後ナデ？	ナデ	縄文後期	刺突文。内外面磨耗。
21	C 2	4	甕	口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期末	夜日式土器 削目突痕。刺突文。グリッドC 3出土の破片と接合。
22	C 3	4	深鉢	底部	ナデ	ナデ	縄文後期	外側に指痕痕有り。内外面磨耗。 (反転復元)
23	C 3	4		口縁部	ナデ	ナデ	縄文後期末	沈線文。
24	S C 0 3	2	精製深鉢	口縁部	ミガキ	ミガキ	縄文晩期	沈線文。
25	D 2	5	深鉢	口縁部	貝殻条痕	貝殻条痕	縄文後期	口縁部に沈線と複数の施文具による刺突文。外側磨耗。グリッドC 2出土の破片と接合。
26	B 6	4	甕	口縁部	ナデ 一部工具ナデ	一部工具ナデ？	縄文後期末	夜日式土器 削目突痕文が2条。 内面上面ケズり。
27	B 7	5	甕	口縁部	ナデ	ナデ	弥生中期	口縁がくの字状に外反する。
28	B 5	4	甕	口縁部		ナデ	弥生中期	口縁がくの字状に外反し、その下に台形状突部。内面磨耗。
29	B 6	4	石斧					砂岩。一部に執着を意識したと思われる擦痕有り。
30	S C 0 3	2	石製品					安山岩。表面に擦痕有り。
31	B 2	5	石鐵					黒曜石
32	B 2	4	銅片					黒曜石
33	C 2	4	銅片					黒曜石

出土遺物観察表

4 まとめ

当調査区の土層の堆積は、おおまかには約4,200年前の霧島御池噴出の降下軽石層（通称「御池ボラ」）の上に黄褐色土・黒色土の順に堆積し、その上に現在の表土層が形成されている。黄褐色土は森林植生下で生成された腐植土層である。同じような土壤が確認された都城市内の伊勢谷第1遺跡では、黄褐色土中からクスノキ等照葉樹のプラントオバールが検出されている。なおこの黄褐色土は当調査区の南側20~30mまでしか確認できない。それ以南では御池降下軽石層の上は黒色土となる。

黄褐色土は森林植生下で生成されたのに対し、黒色土はスキ属やチガヤ属などイネ科植物に由来する有機質に富んだ腐植土である。これらのイネ科植物は日当たりの悪い林下では生育が困難であることから、森林から草原への植生の変化があったことが推測される。

これらを踏まえた上で、遺構の埋土の状況と検出した遺物から、遺構の時期と植生の変化についてまとめるところとなる。

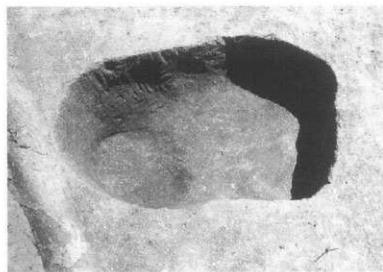
約4,200年前、霧島山系御池火口の噴火はこの地の動植物に大きな被害を与えた。その後、この地域ではまず照葉樹を中心とした森林が形成され、当調査区はその森林の辺縁部であった。やがて、その森林のもたらす恵みをもとめて人々の生活が再開された。SC02・SC04・SC06・SC07・SD01はこの時期にある。縄文時代後期後半（約3,500年前）には森林伐採や火入れ（焼き払い）など人間の手による植生干渉が始まり、森林から草原へと変化していく。SC01・SC05はこの時期である。そして、SC03がつくられた縄文時代晩期から弥生時代（約3,000~2,000年前）にはこの地は完全に森林ではなくなり、人々の生活圏の一部となっていたと考えられる。

<参考文献>

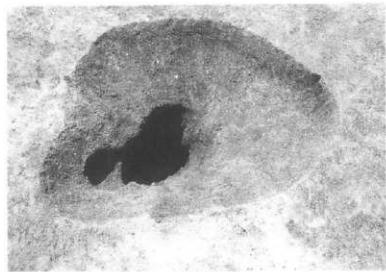
- 武末純一 石川日出志 編 『考古資料大観1 弥生・古墳時代 土器Ⅰ』 小学館 2003年
大川清 鈴木公雄 工楽善通 編 『日本土器事典』 雄山閣 1996年
宮崎県教育委員会 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集』 1985年
鹿児島県埋蔵文化財センター 『鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書(54) 中原遺跡』 2003年
宮崎県『宮崎県史 通史編 原始・古代Ⅰ』 1997年
都城市史編さん委員会『都城市史 通史編 自然・原始・古代』 都城市 1997年
都城市教育委員会 『都城市文化財調査報告書第28集 黒土遺跡』 1994年
都城市教育委員会 『都城市文化財調査報告書第56集 桑原遺跡』 2002年
都城市教育委員会 『都城市文化財調査報告書第57集 白山原遺跡』 2002年



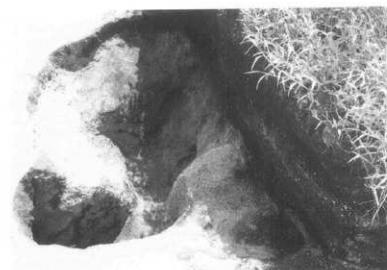
調査区全景



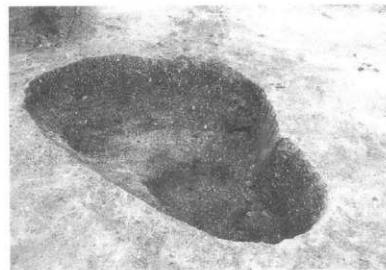
SC01 完掘(西から)



SC02 完掘(北から)



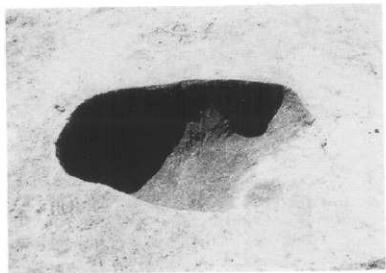
SC03 完掘(西から)



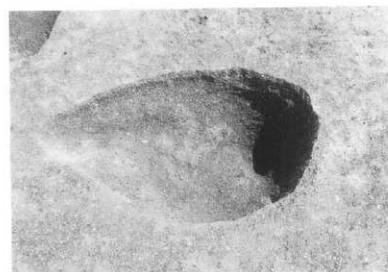
SC04 完掘(南から)



SC05 完掘(北から)



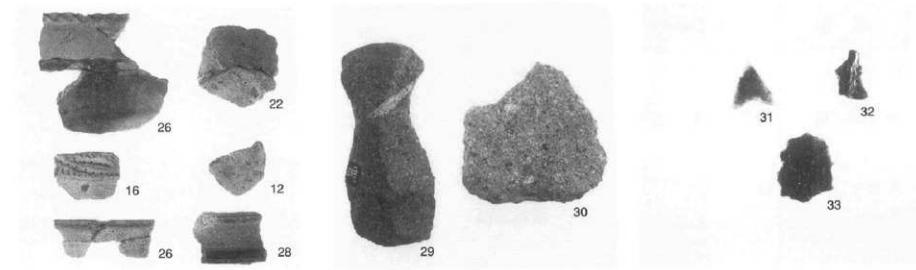
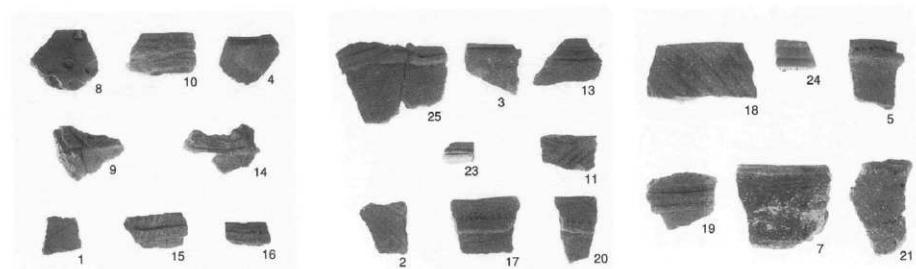
SC06 完掘(北から)



SC07 完掘(西から)



SD01 完掘(南から)



報告書抄録

フリガナ	チクイケイセキ (ダイイチヘヨジハックツチョウサ) ジュウサンヅカダイニイセキ (ダイニジハックツチョウサ)
書名	築池遺跡(第1~4次発掘調査) 十三東第2遺跡(第2次発掘調査)
副書名	県営農地保全整備事業下水流2期地区
巻名	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第67集
編集者	矢部喜多夫 久松亮
発行機関	宮崎県都城市教育委員会
所在地	宮崎県都城市姫城町6街区21号
発行年月日	2004年3月

所取遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
築池遺跡	宮崎県都城市下水流町字築池	31° 48' 25° 付近 31° 48' 25° 付近 31° 48' 30° 付近 31° 48' 30° 付近 31° 48' 35° 付近	131° 6' 25° 付近 131° 6' 30° 付近 131° 6' 15° 付近 131° 6' 10° 付近	2000. 5. 12 ~6. 19 2001. 11. 6 ~2002. 1. 31 2002. 6. 3 ~11. 30 2003. 5. 13 ~10. 30	約80m ² 約500m ² 約700m ² 約800m ²	農道改良
十三東第2遺跡	宮崎県都城市上水流町1953-7ほか	31° 48' 57° 付近	131° 5' 56° 付近	2003. 7. 31 ~8. 29	約190m ²	道路新設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
集落跡、墓	縄文・弥生・古墳	竪穴住居跡4 周溝 地下式横穴墓20 土坑 掘立柱建物跡 等		縄文土器、弥生土器 須恵器、土師器、鉄礬、 骨鏃、鉄剣、直刀、 刀子、ガラス玉、 轡、紙、絞具、耳環 等	黒曜石製石鏃出土	
散布地	縄文・弥生	土坑・溝状造構		縄文土器・弥生土器 石器		

都城市文化財調査報告書 第67集

築池遺跡（第1～4次発掘調査）

十三東第2遺跡（第2次発掘調査）

—県営農地保全整備事業下水流2期地区—

2004(平成16)年3月 発行

編集 宮崎県都城市教育委員会

発行 〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号

Tel (0986) 23-9547 fax (0986) 23-9549

印刷 株式会社 都城印刷

〒885-0055 宮崎県都城市早鈴町1618番地

Tel (0986) 22-4392 fax (0986) 22-4891
